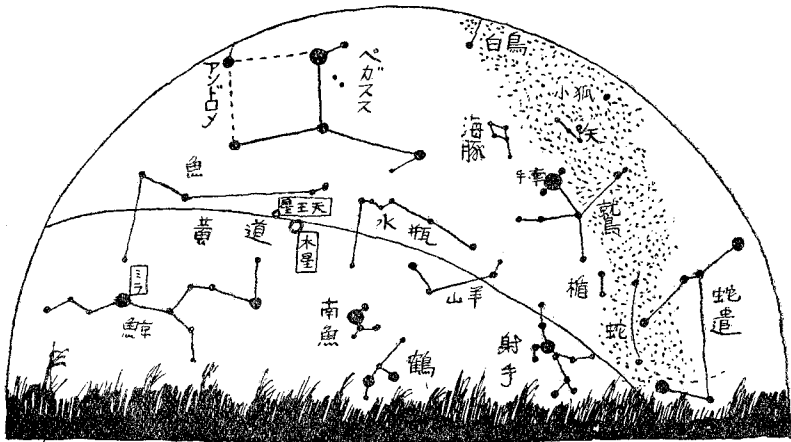


十月の北天

今や、地上も天空もすっかり秋景色になつて了つて、日没後の空には天馬ベガスが天頂に追つて來てゐる。と同時に、東からはアンドロメ、ペルセ、カシオペア等が全身を現はし、くぢらも亦巨軀を現はす。くぢら座の中の不思議な星「ミラ」は九月末か十月初頃に最大光輝となるのであるから、今見逃してはならない時機である。

北極星は依然さしてゐるが、北斗七星は今最も低く地下に没して、北天は淋しい。しかし、西天には尙ほ高く牽牛や織女、白鳥座の星々が輝やき、ヘルクス、へびつかひ等も宵のうちはまだ見えて、夏の名残を留めてゐる。

金星や土星が視界から去つて、宵の黄道は寂しいが、只、木星だけはいつもの通りの賑やかな一族を引きつれたまゝ、高く東の天に輝やいてゐる。



十月の南天

太陽は月の半ば過ぎまで天秤宮にあるが、24日から天蠍宮に入る、星座は月初から永く**おとめ座**であるが、月末30日から**てんびん座**に入る。太陽の自轉軸は一體に北極が東へ著しく傾くが、殊に11日には北極の位置角は $26^{\circ}25'$ に達する。

月は 4日午前11時2分が上弦、 11日午前6時15分が満月
17日午後11時32分が下弦、 26日午前0時37分が新月

さなり、又、11日の正午には近地點、25日の早朝には遠地點を通過する。6日の夜に月は**やぎ座**の γ 星や ϕ 星を掩ふが、之れは肉眼では見えない。

宵の遊星界は木星の獨り天下であつて、其の形ち、其の表面の諸種の模様、殊に所謂「赤點」(Red Spot)は近年著しく見えるやうになつて來た。木星の四つの衛星の陰顯も亦好い景色である。——但し之等は皆望遠鏡を要す。

水星は18日に太陽の東方の最大離角 25° に達し、西天で暫く見ものであるが、赤緯が低いので、北半球の地では見にくいだらう。

火星は21日太陽と合になり、觀望絶望、地球からは99000000里。

金星は早曉の東天に輝やいて、17日には最大光輝(−4等級)に達する。此頃、日晝でも見える筈。

天王星は木星の東北で、春分點附近にあるから、見易い場所であるが、これには優れた視力も古賀星圖とが入用である。

海王星は今し**♏座**にあるが、26日には其の座の首星 Regulus と僅々 $2'$ 以内に接近するやうに見えるから、一寸、珍景である。平生此の星は見つけにくいのであるから、此の機逸すべからず!!!——但し、朝ね坊は禁物。